

クラス会の幹事を任された田中は、久しぶりに中学校時代の友人に電話を入れた。

「はい、金井です」

「夜分遅く恐れ入ります。田中と申しますけど、隆司さんをお願いします」

「隆司は昨日からクラブの合宿に行ってます、今日は帰って来ないんです。帰って来るのは火曜日の夜になるんですけど、何か急用ですか？」

「実は僕、隆司さんの中学校時代のクラスメイトなんですけど、来月クラス会をやることになったので、その連絡なんです」

「そうですね。では火曜日、隆司が戻りましたらすぐ連絡させるようにしますね。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「田中耕一と申します」

「田中耕一さんですね。お家の方へお電話させればいいですか？」

「はい、お願いします。もし家にいない場合は、携帯電話の方にかけてもらえるように伝えてもらえますか？ 一応番号を言っておきます。〇九〇―三五八六―九五―です」

「〇九〇―三五八六―九五―ですね。わかりました」

「よろしく願います。失礼します」

数日後、田中の家に金井から連絡が入った。

「はい、田中です」

「夜分遅くすみません。金井と申しますが、耕一さんいらっしゃいますか？」

「もしもし金井か、久しぶり」

「本当、久しぶりだな。この間、連絡くれたそうだけどクラス会やるんだって？」

「そうなんだ。来月九日の金曜日に神田でやることになったんだけど、金井は出席できるかな？」

「時間は何時から？」

「五時からなんですけど」

「五時から神田か・・・あいにくその日はクラブの試合があるんだ。夕方には終わる予定なんですけど、それから神田まで行っても、ちよつと五時には間に合いそうにないな」

「北見や高木も一時間遅れて来るって言うてるし、途中からでも出席できないか？ 小林先生もその日来ることになってるし、結構人数も集まりそうなんだ」

「そうだなあ、それじゃ早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、店の名前と場所を教えてよ」

「住所は東京都千代田区神田錦町一―十九、海洋飯店っていう中華料理屋なんだ。電話番号は〇三―九八二一―三五九一、大通り沿いにあるから場所はすぐにわかると思うよ」

「わかった。ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

田中はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに再度、確認の電話を入れた。